

# 街look原

街あるっく田原

## 第12号

●文化・伝統の継承「雅楽」

●後世へ伝える「伝統芸能」

●藤井豊店～一家に一部屋 豊の部屋を～

# 文化・伝統の継承

神社で御神務の時に流れる独特なメロディー「チャー・ラー・ラン」。ほとんどの方は、録音テープを聞いているのではないだろうか。巴江神社では、この独特のメロディー「雅楽」を現在も生演奏しているという。巴江神社には「江戸時代、田原藩三宅家の伝統を引き継ぐ「雅楽保存会」がある。現在構成員は16名。



平成24年『歳旦祭』

現在の活動は、巴江神社の例大祭・高德祭・熊野祭・歳旦祭・節分祭・慰霊祭・結婚式の神事のほか、依頼があれ

ば他の地域での出張演奏も行っている。主な演奏曲目は、「浦安の舞」「豊栄舞」「越天楽」「五常楽」「陪臚」「雞徳」など。



『二十年式宮祭』

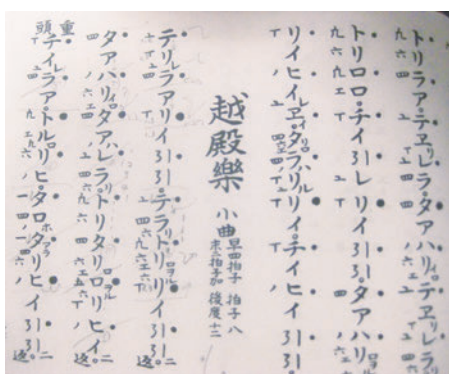
巴江神社には後醍醐天皇の忠臣である児島高德が祀られており、忠義心の厚い人物だったことから「苦境を乗り越え、夢の実現をもたらす」神社と言われている。今年5月には文化の伝承を目指し「高德祭・二十年式宮祭」が行われ、大いに賑わった。

【雅楽とは】  
日本古来の歌舞、中国から伝わった音楽舞踊、平安期に

作られた歌曲の総称である。平安期には王朝文化の中心にあつて最盛期を迎えるが、貴族の衰えと共に衰退していった。現在は宮内庁式部職楽部が中心となつて、雅楽の保存に力を入れている。

【楽譜は暗号?】

雅楽に使われる楽器は、一般的に「三管」「三鼓」「両弦」の8種類。演奏を聴いてみると実に単調だ。吸つたり吐いたり、の繰り返しが続く。どこを演奏しているのか演奏者はどのように把握しているのかとても不思議である。楽譜を読むためには、まず曲を歌



えるようにし、その後楽器の練習を始めるそう。楽譜には

不思議な記号や暗号が書かれており、実に興味深い。



ビューホテル『結婚式』

【後継者問題】

この雅楽保存会の運営は、ボランティアによるもので、「伝統文化の継承に誇りを持つた会員一人一人の気持ち」が会を支えている。そして会の一番の問題は、後継者問題。現在会員の募集に関しては、年齢や居住地域等は問わず、門戸広く募集している。

定期練習は毎週月曜日。これらの楽器の一番伝えたくて伝えられない「生の音」を、ぜひ一度聴いてみてはどうか。身が引き締まり、心が洗われるような音色だ。

## ～豊島大念仏の起こり～

- 豊島大念仏は、この地区に受け継がれるお盆の伝統芸能。その起源は古く、江戸中期にこの地区から遠州に茶摘みに出かけ、そこで見聞きした念仏踊りを持ち帰って始めたと言われており、三河の放下や高踊りを取り入れこの地区独特のものとなっている。
- 大念仏は、初盆を迎えた家をまわり、死者の霊を供養するとともに、余興として念仏踊りを披露する。大念仏への参列者は、「灯笼」や「鐘」「鼓型の太鼓・小太鼓」を持ち、子供は「花笠」を大人は「菅笠」をかぶり、全員がそろいの浴衣を着る。
- お盆の夕方になると、「灯笼」をつるした長い竹竿を持った青年を先頭に、「鐘」「太鼓」をたたく子供や大人、さらにその後ろを保存会の人々がつく。鐘と太鼓の道ばやしを奏でながら豊島地区の初盆の家へ。それぞれの庭先で念仏を唱えた後、囃子に乗って踊り、太鼓の音を鳴り響かせていた。



# 後世へ伝える 伝統芸能

## ～後世に残す～

- 昭和42年、豊島大念仏は田原町の『無形民俗文化財』に指定された。しかし、時代とともに若者を中心に踊り手が減り二度の中断があった。
- 平成16年、当時の自治会役員に呼びかけ20年ぶりに復活。昔ながらの全戸訪問ではなく、豊島の「光福寺」「豊島集会場」「安原の薬師」で行っている。
- 平成21年には田原市文化会館を会場として行われた「愛知県民俗芸能大会」に田原市代表として地元の小学生8名、中学生1名と大人7名でグループを組んで出演したことも。
- 今後も子供達に文化を継承してもらうためにも、地道な活動を重ね後継者育成に努めたい。



大念佛「大正拾壹年当時の台本」



『鐘』



『菅笠』



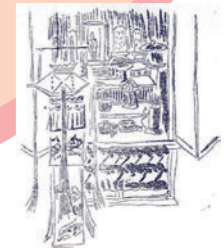
『太鼓』

取材協力：豊島大念仏保存会会長  
高橋邦行（敬称略）

## ～大念仏とは～



- 念仏の初めは天台・真言にもあったが、「鐘」「太鼓」その他の鳴物をならして踊ることであった。平安時代に空也上人が市井や道場で民衆にすすめ、浄土思想の発展と共に鎌倉時代に一遍上人が大無量寿経の踊躍大歡喜の經義にもとづいて踊躍念仏を唱えた。初めは念仏僧のみの踊りだったが、古来行われていた民間の「悪霊鎮め」「悪霊追い出し」「雨乞い」など、あらゆる階級に普及されるようになった。
- 田原でも十三日の夜、新盆の精霊を弔い、慰めるために行われてきた古くからの盆行事の一つであった。谷ノ口地区では昭和四十年（1965）頃まで行われていた。神戸市場地区でも、念仏踊りに使用した太鼓などが保存されており、昭和二十年（1945）頃まで行われていたが、現在廃絶の運命にある。百々地区でも廃絶されてその姿をみることはできない。
- 中山の龍源院には、宝永四年（1707）に、念仏講中の寄進した「石の手水鉢」があり、日出地区に残されている「大念仏歌枕本」には享保十七年（1732）、寛保二年（1742）、宝暦二年（1752）等の文字が見られるので、かなり古くから伝承されてきたものである。中山や亀山地区では、明治十五・六年頃まで、寺の境内や墓地、村の辻などで盛んに行われていたが、養蚕が盛んになり、多忙になったため次第に廃止されていった。
- 日出地区においては昭和四年まで存続されており、初盆の家々を巡り終えた後、月の浜辺へ流れ出て、浜に漂着した無縁仏といわれる諸々の亡霊に対し、「急げただ 御法の船のいぬまに 遅れはてなば 誰が渡さん」と回向を捧げる。  
ここで唱えられる『浜念仏』の声は、哀調を含み、海鳴りのように響いて、地の底から湧き上がる精霊の歡喜のどよめきにも感じられたという。



＝参考文献＝  
『田原町史 上巻』  
『渥美町の民俗探訪』  
『渥美町史 考古・民俗編』

## ～田原東部小学校～

- 田原東部小学校では、『ふるさと教育』への取り組みの一つとして、『地域の伝統文化』を伝承することを目的として、平成18年より6年生児童が、学芸会で『豊島大念仏』を演じている。
- 夏休みに入り興味のある児童は豊島大念仏保存会の方々の練習風景を見学した後練習に加わり、お盆の行事にも参加している。その後10月頃より1ヶ月間ほど学芸会本番に備え、保存会の方々による指導のもと、市民館で夜間練習を行っている。練習が夜になるため親の送迎が必要となるが理解と協力を得ている。
- 昨年の参加児童は約20名。今年は6年生の児童数が少ないこともあり15名程度の参加予定。
- 現在田原東部小学校では、地域の方の協力を得て、学芸会での『豊島大念仏』をはじめ、体験を多く取り入れた学習を進めている。体験からの学びを生かし、考えを深める子どもたちへと成長してもらいたいと願っている。

取材協力：田原東部小学校



『大念仏保存会の方と児童で記念撮影』





# 『一家に一部屋 畳の部屋を』

File  
No.8

藤井畳店～一級畳技能士～

あきみつ  
藤井 研究さん

プロフィール

1973年生まれ。下関の大学に通いながら、京都太秦にてインテリア系の仕事を勉強したのち、田原に戻り4日目となる。



田原で90年ほど続いてきたこの店を切り盛りするのは、藤井畳店4代目オーナーの藤井研究さん。藤井さんの曾祖父が大正時代に新町の龍門寺境内にて畳屋を始め、現在の神戸町に作業場を移転して30年が経つ。田原で畳屋を開く前は曾祖父の先代が浜松で畳屋を営んでおり、始まりは江戸時代までさかのぼる。

中学生の頃より家業を手伝ってきた藤井さんは地元の高校を卒業後、田原を離れ下関の大学へ進学した。在学中よりインテリアの勉強をするため、身内が経営する京都太秦にある映画スタジオで、インテリア専門の撮影助手として2年半ほど経験を積む。

そんな折、70歳になる祖父が体調を崩したのをきっかけに、家業を継ぐ事を決意し、田原へ戻ってきたのだ。

畳の起源は奈良時代だが、平安時代に公家が床の上に敷いて使用したのが始まり。主に関西で使用される「京間」や関東で使用される「江戸

間」、京と江戸の中間に位置する地域で使われる「中京間」などさまざまな種類があり、東三河では「江戸間」が普及していた。徳川家との関係が強い愛知県では「中京間」が普及していたが、浜松に近い東三河は違うようだ。

畳の表面には藁草が使われており、国産では熊本県八代産、外国産では中国の藁草が使用されている。最近では和紙も使われるようになり、藁草特有の香りは無いが、カビにくい上に耐久性もあり、ささくれにくいいため需要があるようだ。畳の中身も以前は藁と決まっていたが、最近では木質ボードと断熱材を縫い合わせた畳床を希望する顧客が増えている。

4月から7月初め頃にかけて湿気を吸った畳は、梅雨が明け『気温』『湿度』『養分(ほこりなど)』の3つの条件が揃うことでカビが一気に発生するという。カビが生えた場合の対処法は、消毒用エタノールを原液のまま霧吹きに

入れ降りかけ、乾いたら畳の目に沿って掃除機で吸い上げその後空拭きをする。この動作を何度も繰り返すことで抑えることが可能なようだ。

藤井畳店には畳乾燥機があり、畳の張替とセットで1枚千円、乾燥のみで二千円。約90℃で加熱乾燥ができる。

藤井さんのこだわりは、注文を受けた際必ずお客様の家に伺い、その部屋に合った畳をオーダーメイドで制作すること。

畳の需要は年々減っているが、藤井畳店では長年お付き合いしている顧客や工務店などとのつながりをこれからも大切にしたいと語っている。

藤井畳店では日本独特の畳文化を途切れさせないために『一家に一部屋は畳の部屋』をモットーに、今後も理想を追い続けてもらいたい。



『畳乾燥機』



『和紙の畳表』



**藤井畳店**  
田原市神戸町大坪 40-4  
☎ 0531-23-1058  
営業 8:00-18:00  
休 毎週日曜日  
回 5台



『職人道具』



『緑も数種類から選択可能』